

令和4年度

## 里山ほのか学園の自己評価、評価表分析結果

認定こども園は、社会福祉事業の主たる担い手にふさわしい事業を行うため、当園の教育保育の内容に関する全体的な計画を踏まえ、指導計画や食育計画に基づく保育実践の振り返りをするとともに、保育内容等の自己評価を行っております。

当園では、保育教諭は自己評価チェックリストを元に評価し、振り返りを行うことで課題を見つけ、改善のために自己研鑽し、保育の質の向上に向けて努めていきます。また、保護者の方との関わりを大切に、教育保育内容の充実を図り、地域に根差した開かれた子ども園を目指します。

カテゴリー名	チェック項目
I 保育の計画性	<p>園の教育保育理念や教育方針は、朝礼昼礼また職員会議等で共通理解が出来るよう伝え合っているが、全職員が集まって話し合える時間が持てないのが現状である。職員間の伝達や連携を通して補えるように努めていきたい。</p> <p>主体性を育む保育を考え、子どもたちの遊んでいる様子を見とり、その後どのように遊びが進んでいくかを見通して、人的物的環境を考え保育計画を立てるようにしている。保育教諭の経験の差もあり、指導計画の作成のための園内研修も計画していく必要がある。</p>
II 保育の在り方、園児への対応	<p>毎日の自分の保育を振り返ることの大切さや、計画の再構成をする PDCA サイクルの考え方は、職員間で根付いてきた。近年報道されているような、不適切保育や車の置き去り事故等の危険なことが無いよう、セルフチェック表で自分の言動を確認したり、複数担任で保育を行うことで、園児のみとり方や関わり方、変化に気づくことができるようにしている。</p>
III 保育者としての資質や能力・良識適正	<p>派遣職員や非常勤職員の中でも働き方にばらつきがある為、専門職としての資質能力に差が出ている。今後、内部研修、外部研修を通して専門知識や技能を身につけられるような研修を計画的に行いたい。</p>

<p>IV保護者への対応</p>	<p>子育てに不安を抱える保護者や困り感がある場合は、個人懇談を行い保護者の思いを受け止め、子どもたちの健やかな育ちを考え、支えられるよう共通理解を得ている。</p> <p>保護者からのご意見があった場合は、主幹教諭や園長が話を伺い、問題があった場合は、解決できるように努めている。</p>
<p>V地域の自然や社会との関わり</p>	<p>コロナ禍で、地域交流が出来なかったが、保育の中で子ども達から梅ジュースを作る為の材料を買いに出かけたい、という発案があり、地域のスーパーへ出かけ買い物をする経験を通して、地域の方との交流が出来た。</p> <p>年長児が、小学校へ出かけ見学ができたことで、就学への心の準備に繋げることができた。保幼小連携という事で、学区内の関係機関が集まり、子ども達の事や各園、小学校の情報交換をする会議に定期的に参加出来た。</p> <p>年2回の園開放日には、10組ほどの親子が来園され、園の様子を見て頂けた。子育て支援については、コロナ禍であった為、要望はあったが断らざるを得ない状況であった。</p>
<p>VI研修と研究</p>	<p>園内研修で、子どもたちの遊びをみとり、保育者の専門性や子ども達の学びがどこにあったかを話し合い、明日への保育に繋がるよう学びあった。子どもたちの興味関心をくすぐるような環境設定が課題である。園内外の保育マップを作成したり、若手保育教諭が集まって、環境についての話し合いを通し、子どもたちの心揺れ動かされるような、環境設定が出来るように計画をしていきたい。</p>